

●目次●

1面 笑う子育て
専門部から やばと

2・3面 特集
疑似体験から学ぶ
～共生社会を考える～

4面 ミニーズ探検隊が行く！
～給食室潜入編～
八幡人物伝
～松方正義編～
大人版つぶや句大賞発表！
全国広報紙コンクール表彰式報告
校区活動報告他



やはた

第114号
発行
八幡小PTA広報部
鹿児島市立八幡小学校
鹿児島市下荒田三丁目25-1
TEL 099 (255) 5136
児童数 682名/P戸数 551戸



子供への一首
どのようにな
どのように
歩くとも
いのちいつばいに
生きれば
いいぞ
『育てたように子は育つ』
詩・相田みつを
発行・小笠原

お母さん・お父さんの 口ぐせ調査

- 明日の用意したの？
- 早く寝なさい。
- 早くしなさい。
- 早くお風呂に入りなさい。
- とうして弟(妹)とケンカ
はかいかなの？
- こんなにちがうして、片
付けなさい。
- 早く終わらせなさい。
- 外で遊びなさい。
- 早く宿題をやりなさい。
- 気をつけなさいよ。
- もうやめなさい。
- イントンを音を立てるな！
- だらしないんだから…。
- 早く起きなさい。
- さっさと勉強しなさい。

この口ぐせ調査から見えてくる『お父さん・お母さん方の望むいい子ども像』は、次のようなものではないでしょうか。

朝、起こされずに自分から起き、朝食をとり、さっさと歯を磨いて学校へ元気に行つて集中して勉強する。自分がやらせてイヤなことは決してせず、家へ帰つても弟・妹と仲良くし、決してケンカせず、すぐに宿題を終わらせ、時間割をそろえ、すばやくお風呂に入る。子どもとしての分をわきまえ、テレビもゲームも時間を守り、出した物はきちんと片付け、部屋はいつも綺麗になっている。

はたして自分が子どもの頃どれだけのいい子だったでしょうか。悪いところがあるし、不完全なところがあるから、子どもだし、人間なのでしょ

そう考えると、あなたのお子さんは十分いい子ではありませんか。子どものよい所を見つめ、子どもといっしょに笑ってください。

デンマークのお母さんの言葉として「母親の一番大切な仕事は子どもを笑わせることよ」とあります。

子どもは笑うのが大好きです。なぜ笑うのが好きかという点、心と体が笑いを必要としているからです。よく笑う子どもは、心も体も健康に育っています。健康な子どもはよく笑います。健康だからますますよく笑う。このいい循環があれば、多少の困難があっても乗り越えられるでしょう。



心がつながり、お互いを信頼しあっている家庭は笑顔に満ち、その中で育つ子どもには大きな安心感が生まれるのではないのでしょうか。子どもの言葉の豊かさ、面白さを引き出すのに、家庭の雰囲気は大きな役割を果たしています。

笑いのある 子育てのポイント

- 子どもの発想の豊かさは大人の遊び心から生まれる。
- 子どものユーモアは、人と人をつなぎ、勇気を与えてくれる。
- 子どもはいつも「いい子」でなくていい。
- 笑いが子どもの生きる力を育む。
- 子どもをゆつたりと見守ることが、勉強のもとを育てる。
- 柔らかな感性を大事に子どもと向き合う。

参考資料
増田修治著『笑う子育て実例集』他

小研修視察の
受け入れを終えて
～6月25日～
PTA副会長 上ノ町敦子
答に、その後、質疑応答になり、桜山小学校の一番興味のある内容が、八幡小のPTA新聞作りに関しての質問でした。特に桜山小学校のPTA会長さんが、たくさんの質問や意見を聞き、PTA会長自ら、テーマや内容、構成などを考えて新聞作りに苦勞しているという話をされていました。

しかし、新聞作りをする事で保護者間の交流が深まり、一つのことをみんなで作り上げる喜びがあるんだと広報部員同志のやりとりを聞いて感じました。

普段、何気なく読んでいるPTA新聞が、今回桜山小学校の視察で、色々な苦勞や喜びの詰まった新聞である事が分かりました。

あいにくの雨で、足元が悪い中での視察でしたが、お互いにとって内容の濃い視察だったのではないかと思います。

やばと

最近、『PTAからPTICAへ』と書かれているそうです。PTICAとは、PTAとPTA職員、PTA保護者、PTA職員、PTAでは、Cは何でしょう。Cはコミュニティ(地域住民)なのだそうです。

ここ八幡小学校も青パトによるパトロール、八幡校区運動会や歩こう会があります。

もし、地域の方々が子どもたちに無関心だったら心配ですね。保護者と教職員だけではなく、地域の方々と一緒に『共育』していく『PTICA』親と教師と地域住民の会に、まずは参加してみることが大切です。

「気付く」ことが はじめの一歩

現在の日本における六十五歳以上の高齢者は約二五〇万人、総人口の20%以上を占めています。これが、二〇五〇年には総人口の40%を越え、世界に類を見ない急速な高齢化が進むと言われ、今後私たちがとりまく社会情勢は大幅に変化するものと考えられます。社会的弱者といわれている高齢者が、あらゆる行政的社会的支援に加え、私たち一人ひとりが問題意識をもつことが重要です。

全ての人間が共に生活できる社会、『共生社会』を実現するには、私たちは何をすべきか、何が出来るのか。疑似体験を通して、支援する側、される側の双方の立場に立ち、『一方的な支援』という形ではなく、相手が求める支援とは何かを考えてみたいと思います。

十月八日に行われた、八幡小学校PTAバザーにて、本校児童及び保護者、ご来場いただいた方々を対象に、各種疑似体験器具を装着した、四種の疑似体験を実施しました。



視覚障がい者体験

- 目の見えない人は、すごくがんばって足と杖を頼りにしているんだなと思いました。私は障がい物にぶつかったりしてしまいました。(2年)
- 次に何があるのかわからなくてとても怖かったです。目が見えない人がいたら声をかけてあげたいです。(5年)



八幡マミー's隊

高齢者体験

- 自由を奪われた感じがした。(5年・4種体験)
- 重り(装具)が重くて体が痛かった。また、メガネのせいで前が見えにくかったので、ますます歩けにくくなった。(6年)
- いつかは自分もこんな風になるのかなあと考えると、今の内から足腰を少しでも鍛えておこうと思いました。(保護者)

傍観者効果

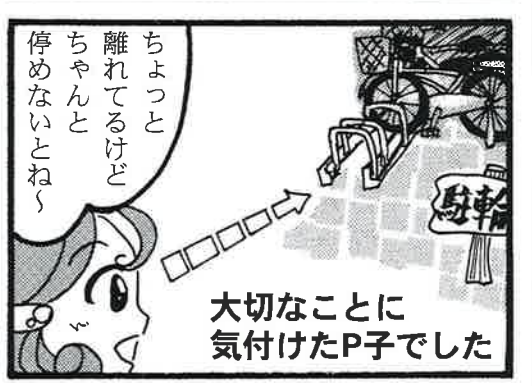
人間には「傍観者効果」という心理が働くそうです。傍観者効果とは、社会心理学の用語の集団心理の一つで、人間は集団の中に入ると行動力が落ちる心理のことをいいます。

こんな時、あなたならどうしますか？ の法則

人通りの多い歩道を歩いていると目の前でお年寄りが段差につまずいて転んでしまいました。なかなか立ち上がりません。
①すぐ駆けつけて、「大丈夫ですか？」と手を差し上げる。
②気にしつつも、『誰かがしてくれないかな…』と見守る。
人が多ければ多いほど②の行動をとりがちになるという心理が傍観者効果です。これは以下の3つの考えによって起こるそうです。

- 多元的無知……他者が積極的に行動しないことによって、事態は緊急性を要しないと考える
 - 責任分散……他者がいると、自分がしなくても誰かがするだろうと責任が分散される
 - 評価懸念……行動を起こした時、その結果に対して周囲からのネガティブな評価を恐れる
- これらの心理が原因か、1964年ニューヨークで、自宅前の駐車場で女性が暴漢に襲われ大声で助けを求めましたが、その叫び声に気づいた38人の近隣の住人達は約30分もの間、誰一人として助けに行くことも、それどころか警察に通報しなかったそうです。結局女性はナイフで数箇所刺され殺害されてしまいました。
《キティ・ジェノヴィエー事件》
事件・事故に限らず、傍観者効果はPTAでも同じことが言えるのではないのでしょうか。「誰かがやってくれる」そんな他人任せで無責任な心理に翻弄されずに、常日頃から親自らが子どもの見本となるような行動を示していきたいものです

小さい事から始めよう！ Vol.5



視覚障がい者の立場から

～アイマスクの使用について思うこと～
この種の講座に強く望みたいことは、障がい者は何が出来るのか』ということと併せて、『何がどこまで出来るのか』といったことを正しく伝えてほしいということです。はっきり言えば、視覚障がい者は一般に、『見る以外に全部できる』ということですが、アイマスクの体験(視覚障がい者体験)では、『見えないって恐ろしい！』ということになって、全然違う人間像ができてしまっています。視覚障がい者の一番の障害は、『見えない』ということではありません。見えない人が、仕事や社会生活に参加する上で困難がある、そういう社会のシステムや構造そのものが『障害』の本質だと思います。アイマスクの使用で、見える人たちの目をふさいでしまうと怖さばかりが強調されて、こういった大切なところが見えなくなってしまうのではないかと心配しています。

http://homepage3.nifty.com/O3moko/text/d_ismask.html

車いす体験

- 一人では乗りこえられない段差もあった。二人なら大丈夫。(5年)
- 車いすに乗っている人の気持ちがいかに分かった。また、高い段差等がなくさんある街では、車いすの人は過ごしにくいと思った。また、押す人(介助者)は、気遣わなくてはならないので大変だと思った。(5年)
- 段差が多くて進みづらかった。もっと町や道の段差を減らしてほしい。一人で暮らしている人は大きな段はどうやって越えるのかなと思った。(5年)

小さな段差が大きく体に響き、びっくりしました。何でも体験してみないと車いすに乗っている人の気持ちが分からないものだなと思いました。早稲田ハンディキャップのある方にやさしいおつくりがなされたらいいと思います。(保護者)



下肢障がい者の立場から

私は、大学一年生の時に交通事故で背骨を骨折しました。背骨の中には脊髄という神経があり、皮膚などの感覚を脳へ伝え、脳からの指令を筋肉へ届ける働きをしています。私は骨折により、この神経が切れてしまい、両足の感覚がなくなり、足を自分で動かすことができません。それから、それ以後では、車いすを使って生活をしています。では、車いすで困ることは何でしょうか？

車いすで困ること

皆さんが想像されるとおり、車いすは段差に弱いです。街で階段に出くわすと困ります。お店で欲しい商品があっても高いところにあると届きませんし、通路が狭いと商品までたどり着けません。しかし、これらの問題はそんなに困ることはありません。なぜなら、人に助けてもらえばできるからです。階段は周りにいる人に頼めば抱えてもらえ、商品は店員さんが取ってくれます。本当に困ることが他にあるのです。それは、トイレの問題です。私は、事故のせいで足が動かない、感覚がないという障がいだけ

前田 究さん

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会
前田 究さん
京都府出身 1971年生まれ
鹿屋体育大学陸上部卒業 (本校保護者)
鹿児島県障害者スポーツ協会
鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会
鹿児島県障害者陸上競技連盟
鹿児島県卓球ハレー協会 所属



高校時代、専門は幅跳びで7M13という記録をもつ。オリンピック出場を目指し、鹿屋体育大学に入学。入学後まもなく交通事故に遭い、車いす生活を宣告され絶望の淵へと突き落とされるが、車いすマラソンと出会い再びアスリートの道を目指す。1998年にイギリスで開催された国際ストークマンデビル車椅子競技大会の日本代表に選ばれた。現在は、障害者の自立、社会活動を支援する活動や環境づくりに意欲的に取り組む。

妊婦体験

- とても重くてしゃがむのが難しかったです。(小3)
- ものすごく重かったです。いたわる気持ちをもつ続けたいと思いました。(保護者)



共生社会

疑似体験を実施するにあたり、高齢者や障がいをもつ方々、また、支援するご家族や関係機関に従事する方々から直接お話を伺うことで、社会的弱者の立場にある方々を支えるためには、社会全体がその自立生活を支える仕組みをつくり出すことが重要であることに気付かれました。共生社会への第一歩は、この『気付く』です。相手の思いを直接聞き、そして受け入れようとする心です。人はしばしばこの努力を怠り、自分なりに解釈をして、相手を理解したつもりになりがちです。このような自己基準による思い込みは、時に相手を傷付けることにもなりかねません。相手の特性を知り、そして理解し、固定観念をもたず相手に尊重することを、『真の共生社会』

実現に向けて

と云えるのではないのでしょうか。差別や偏見の無い住み良い社会をつくるには、私たちの意識を変えなければ何も変わりません。全ての人が快適に、共に生活していける環境に向けて。そこに意識を向けることで、今まで見えなかった様々な思いや課題が自然と見えてくるものです。また、一人暮らしの方を孤立させない地域の取組や、日々の何気ない声掛けや日常の挨拶など、私たちができる小さなことから目を向けていきたいものです。高齢者や障がいをもつ方々にとって住みやすい街は、子どもが育つ上でも良い環境と言えるのではないでしょうか。地域と共に育つ子どもたちは、豊かな心が育成され、『生きる力』を自然と身に付けていくことでしょう。

“話し相手”を求める高齢者

鹿児島市山下町かこし市民福祉プラザ内にあるボランティアセンターにお伺いし、ボランティアコーディネーターの寺原芳子さんに話を伺いました。昨今の社会動向から、鹿児島市内においても核家族化が進み、一人暮らしや夫婦二人暮らしの高齢者世帯は年々増加しているとのこと。それに伴い、県外に居住する子どもさん方から、親の安否を確認してほしい等といった相談内容も増えているそうです。また、快適な在宅介護を続けるために、日常生活のお手伝いをホームヘルパーさんをお願いする一方で、介護保険の対象外である、『話し相手』を求める利用者(高齢者)も多くいらっしゃるそうです。これは普

寺原芳子さんに聞く

ボランティアコーディネーター 寺原芳子さん
から、近所付き合いの希薄さの影響もあって、また、ご本人が周りの人に自分から話や相談ができない等といった性格的な要素もあって、それだけに、『遠くの親類より近くの他人』といった、近所同士の声かけや地域の見守り、結びつきがこれからはますます重要になってくると言えるでしょう。
ボランティアコーディネーターとはボランティア活動を行いたい人とボランティアの応募を受けたい人(指導などを対象)につなぐ専門家の役割です。ボランティア(又はその立場をい



全国表彰 P T A 新聞 『やはた』

昨年度発行された本校の P T A 新聞『やはた』が全国小・中学校広報部コンクール小学校の部で★佳作★として表彰を受けました。

8月27日、千葉県幕張にて授賞式が行われました。

【広報誌とは?】という話の中で三つの役割

① P T A 活動
子どもの活動の中で関係者間を結びメディアとして色々な考えを共有し、問題を解決していく。

② 地域を結ぶ活動
学校の様子・情報を提供するコミュニケーションとしていく。

③ 紙上の記録
P T A 活動・活動の記録・学校の歴史等、日々の取り組みを生き生きと伝える。

今回の会に出席して、改めて、学校・地域・家庭この三つを結び要としての広報誌の役割というものを学びました。

昨年度の広報部員同様、本年度の広報部員も P T A の皆様に楽しんで読んでもらえる紙面作りをめざしています。



給食室へ潜入!

の巻~

食材は地産地消を心掛けているとのことですが...
米と肉は鹿児島産です。大豆は国産、魚は冷凍物は一切使っていません。
野菜は吉野に大きな畑があり、小松菜や青梗菜等は、この畑で収穫したものを使用しています。定期的なものもあり、全ての野菜が鹿児島産(国産)というのは難しいです。
いんげん・枝豆はタイ産、ピーナツはオーストラリア産等、外国産も一部ありますが(市から中国産は使わないように指示があります)、国産一〇〇%を目指しています。



左から、栄養士の有里厚子さん、竹迫由美さん、池水和子さん、米沢恵子さん、栄養教諭の石踊律子先生

子どもたちが毎日楽しみにしている給食...
栄養バランスがいいのは献立表を見たら分かるけど...
気になること、アレコレ聞いてみました。

鹿児島市内でも学校に併設している給食室は珍しいそうです。
八幡小の児童六八二人分と、先生方の給食を作ってくださいるのは、栄養教諭の石踊先生をはじめ、四人の給食技師さんです。



夏場は許の物等ザッパリしたものを出し、また、直前まで冷蔵庫で冷やしておくそうです。

残食について
GWを境に残食が増え、涼しくなると減ります。

また、45分間の給食時間ですが、準備・片付けの時間をできるだけ短くし、食べる時間を長くとれるようにしたいです。
給食を完食することで自分に自信がもてたり、生活リズムも整ってきますね。

毎月の献立表の裏面に載っているメニューも、是非子どもさんたちと一緒に作ってみてください。
なお、昨年度、一昨年度と給食費は全納です。保護者の皆様のご協力とご理解、ありがとうございます。

運動会で地域の絆深める

十月十七日、本校にて八幡校区運動会が開催されました。昨年は新型インフルエンザの影響で中止になったこともあり、子どもたちはとても楽しみにしていたようです。



見て、聞いて、知って得する八幡の魅力☆

十一月二十日、秋晴れの下、八幡校区歩こう会が開催されました。本校の先生方をはじめ、一五〇名を超える親子や地域住民の方々に参加し、約四・五kmのコースを個々のペースで会話を交えながら歩きました。これまで知らなかった地域の歴史、気付かなかった

お品書き



高菜ごはん 地鶏の煮込み

最後の区域別対抗リレー(男女別)では、小学一〜六年、中学一〜三年、十〜四十代、主力者一名、計十四名の幅広い年齢層の走者が出場。大きな声援を背に受け、バトンを繋いでいきました。どの競技も各支部一丸となって熱戦を繰り広げ、地域の強い結びつきを感じられた運動会でした。

一つ一つの素材の味を感じることができ薄味で、とても美味しく、なおかつ色とりどりの野菜がバランス良く使われていました。手間のかかる煮物など、家ではなかなか作ることがないので、こうして給食のメニューに取り入れていただくと大変ありがたいです。
給食の懐かしさを感じ、またメニューにも懐かしさ(母の味)を感じ、ホッとしたりと時でした。時にはこういったメニューも家で作ってみようと思いました。

いつもありがとうございます&ごちそうさまでした!!



自然等、新たな発見の連続でした。これからは、このようになふれあいの活動の場を通じて、魅力溢れる八幡の地域資源を、P T A 新聞『やはた』からどんどん発信していこうと思えます。

今年八幡校区振興会創立五十周年の年。今後ますます発展し、このような活動が長きにわたり根付くことを願わずにはいられません。
エレクトーンが寄贈されました!!

子どもたちの音楽教育に役立ててほしいとのことで、「おやじの会」からエレクトーンを寄贈していただきました。早速、音楽学習等で活躍中のことです。きつこの先何年も、子どもたちの成長を静かに見守ってくれることでしょう。本当にありがとうございます。

第二回 大人版つぶや旬大賞発表!!

- 最優秀賞 クリスマス 昔は主役 今、黒子 (6-3 福田 尚子様)
- 優秀賞 さつまいも オイもワイもで 食べようよ (2-2 彩愛 mama ☆様)
- ユニーク賞 クリスマス 部屋も家計も 真っ赤か (2-2 湯之上道代様)

※今学期もたくさんのご応募、誠にありがとうございました!!

「社会的弱者の日常生活の不便さを学び理解してもらおう!!」
そんな安易な気持ちで疑似体験を企画。意気揚々と準備に励んで参りましたが、あらゆる立場の方々からお話を伺う内に、健常者と社会的弱者との間にギャップが生じていることに気が付かれました。抱えている問題や障がい、『できないこと』は人それぞれで、疑似的な体験だけで理解するなんて無理難題な話です。原稿締切まで二週間弱。健常者の『思いがかり・自己満足新聞』にならぬようほとんどの原稿を白紙に戻し、多くの方からのご理解とご協力をえて、何とか発行までこぎつけることができました。
私たちの思いが通じたかは分かりませんが、今回の疑似体験をきっかけに、一人でも多くの方が『気付き』の大切さに気付いてくださることを願うばかりです。

明治政府きっての財政通
松方正義編
明治の中頃(一八八〇年頃)の日本では、西南戦争の戦費を賄うために、政府が紙幣の乱発を行なったため、ひどいインフレになり国民が苦しんでいました。当時大蔵卿に就任していた松方正義は、兌換券(だんげん)発行の特権を有する中央銀行の必要性を説き、明治十五年(一八八二年)、日本銀行を設立しました。

やはたのぼっけもん 其二

父正恭・母嬰子の四男。十三歳にして両親を亡くしたが、日置流の弓術を学び、示現流の剣術を修業。奥義を究め文武に精励した。
明治十八年の伊藤内閣で蔵相として入閣、続く黒田・山縣内閣に留任、明治二十四年、第一次松方正義内閣を組織して首相となり蔵相を兼務。明治二十九年、第二次松方正義内閣で、経営予算の実現と、金本位制を確立させた。その後も『我に奇策あるに非ず唯正直あるのみ』を信条に、国政に関与し、国力の充実と財政基盤の安定に大きな役割を果たした。



第二弾!! 八幡校区に所似のあった先人たちをご紹介します
松方正義の松方公正は、松方正治の長男で、武之橋(たけはし)の近くには、松方正義の功績をたたえ、大きな記念碑が建てられています。